

2027年3月期（131期） 第1四半期決算説明資料

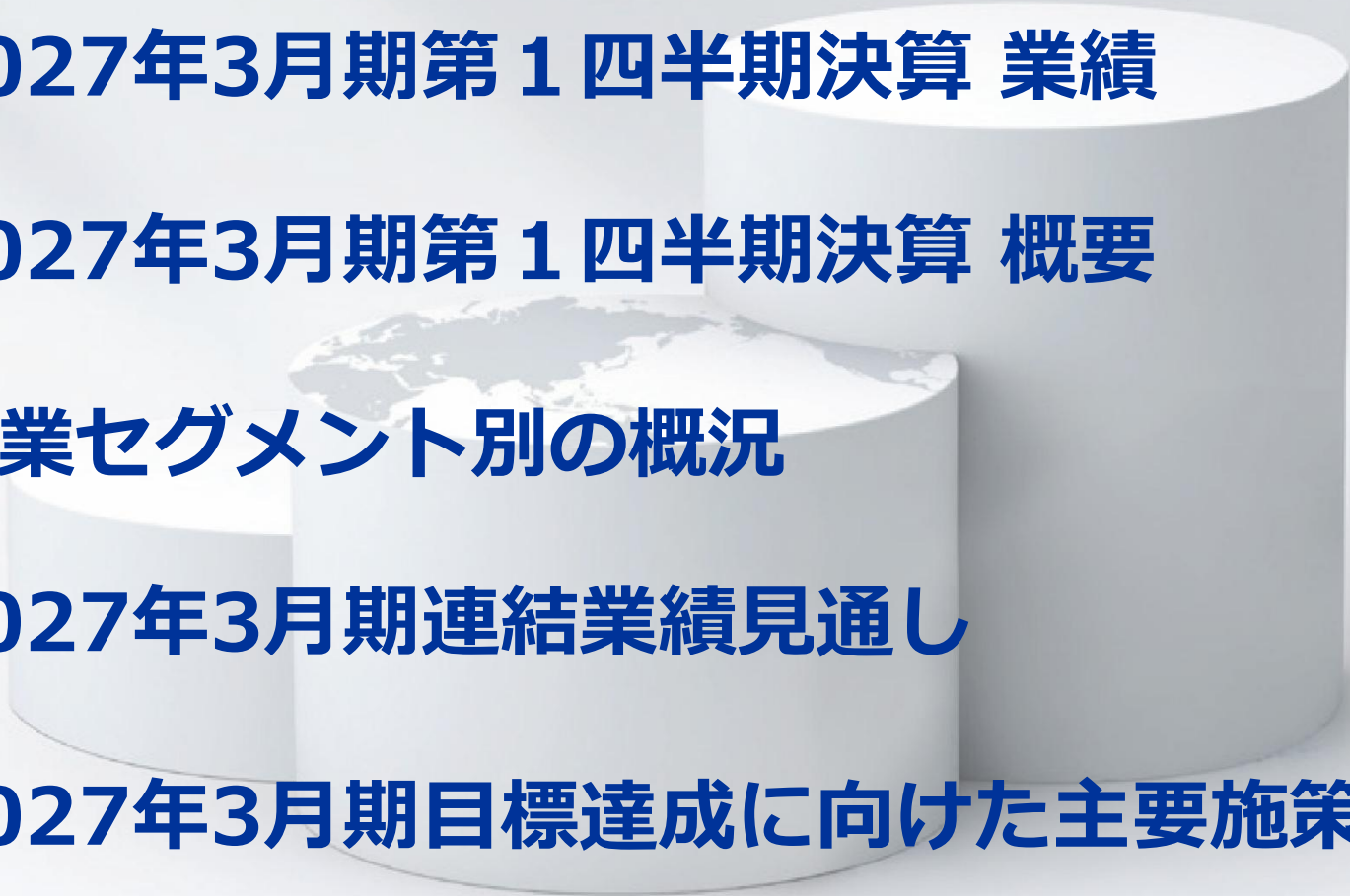


2026年8月5日

グンゼ株式会社

東証プライム（コード番号：3002）

ご説明の流れ

- 
- I. 2027年3月期第1四半期決算 業績
 - II. 2027年3月期第1四半期決算 概要
 - III. 事業セグメント別の概況
 - IV. 2027年3月期連結業績見通し
 - V. 2027年3月期目標達成に向けた主要施策

I. 2027年3月期第1四半期決算 業績

I-1. 2027年3月期第1四半期決算 業績

連結業績

(単位：百万円)

	2027年3月期 第1四半期 (下段:利益率)	2026年3月期 第1四半期 (下段:利益率)	対前期	
			増減額	増減率(%)
売上高	31,367	32,240	△872	△2.7
営業利益	3,387 10.8%	1,806 5.6%	1,581	87.6
経常利益	3,419 10.9%	1,838 5.7%	1,581	86.0
親会社株主に帰属する 四半期純利益	2,640 8.4%	△1,473 △4.6%	4,113	-

(前期の主な特別損益)

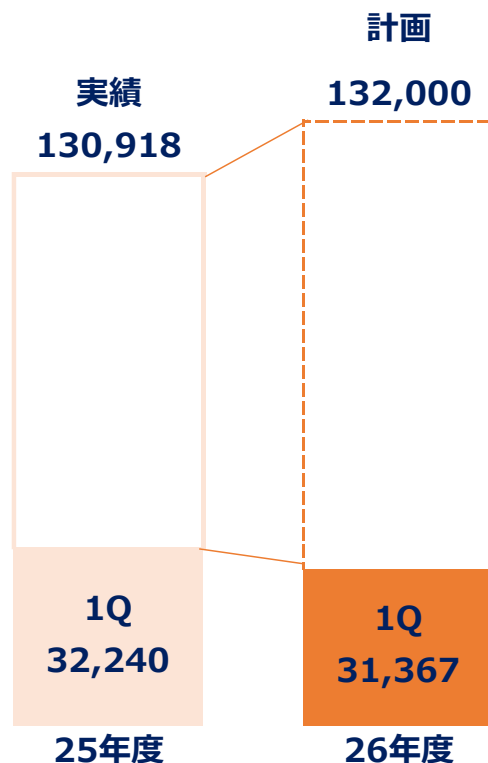
アパレル事業構造改善費用 △3,434

売上高：プラスチックフィルムが原料価格上昇に対する前倒し受注などにより堅調に推移したが、アパレルの量販店など既存ルートでの販売減少影響を受け、872百万円の減収
 営業利益、経常利益：プラスチックフィルムにおける販売価格と原料価格のタイムラグによる利益の押し上げや、海外事業の収益改善、アパレルの事業構造改革の順調な進捗により、営業利益は1,581百万円、経常利益は1,581百万円の増益
 親会社株主に帰属する四半期純利益：前期に計上したアパレル事業における事業構造改善費用の影響などにより、4,113百万円の増益

I - 2 . 2027年3月期第1四半期決算 業績

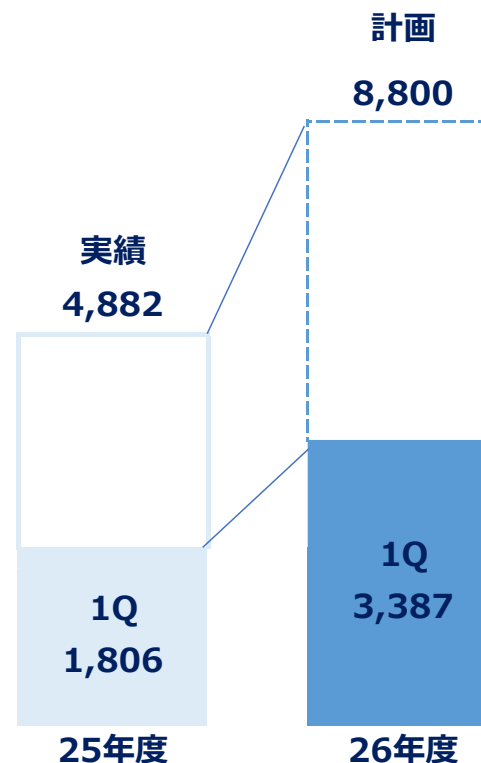
四半期進捗状況

売上高



営業利益

単位：百万円



今年度は、メディカルは医療用レーザー事業の縮小や中国事業の苦戦により、踊り場となるも、機能ソリューション、アパレルの拡大・回復を着実に進め、計画通りの着地を見込む

Ⅱ. 2027年3月期

第1四半期決算 概要

Ⅱ-1. 第1四半期決算サマリー

(2026年4月1日～2026年6月30日)

事業セグメント業績の主なポイント

機能ソリューション	<u>増収増益</u> ◆プラスチックフィルムは、原料価格上昇に対する前倒し受注に加え、販売価格と原料価格の変動タイムラグによる利益の押し上げや、海外市場の回復、国内外での製品原価構造の改善などにより、好調に推移 ◆エンジニアリングプラスチックは、半導体市場の回復基調もあり、概ね順調に推移
メディカル	<u>減収減益</u> ◆国内は医療市場の競争が厳しい中、癒着防止材や骨接合材などの吸収性製品が順調に推移も、医療用レーザー事業の縮小影響を受ける ◆中国販売は、高額医療規制や、日中関係悪化に伴う購入抑制影響が継続
アパレル	<u>減収増益</u> ◆ブランド集約や価格改定などの集中特化戦略により販売数量は減少したものの、生産・物流拠点の集約化や間接部門合理化などにより収益性は改善 ◆個人消費が低迷する中、DtoCルートはアセドロンが牽引し前年並みに推移も、量販店などの既存ルートは売り場の縮小影響を受ける
ライフクリエイト	<u>増収増益</u> ◆不動産関連は、商業施設のリニューアル効果により来館者が増加するなど、好調に推移 ◆スポーツクラブ分野は、不採算店舗削減により収益性が改善

Ⅱ-2. セグメント別業績

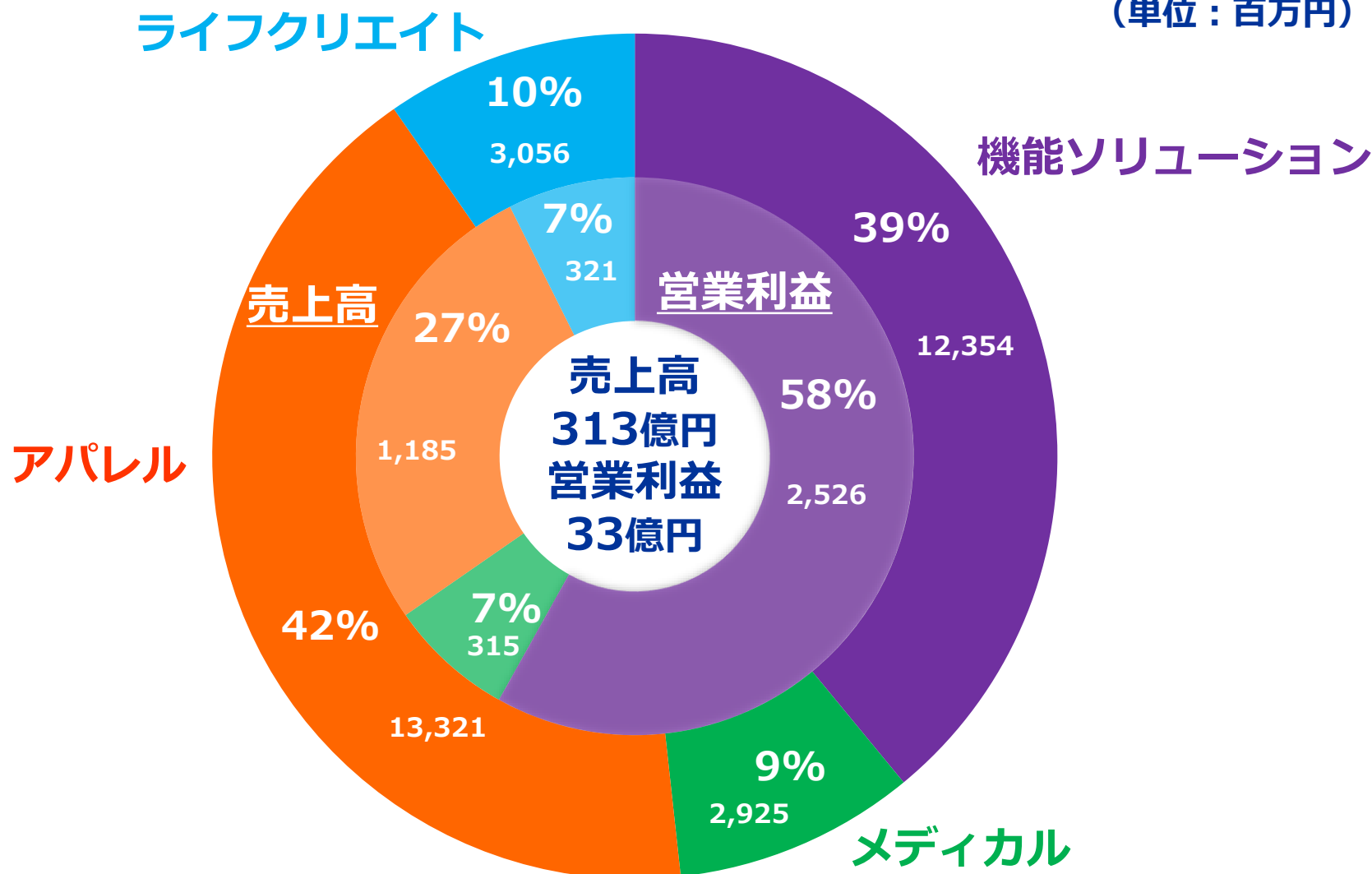
連結業績

(単位：百万円)

	売上高			営業利益（下段：利益率）		
	2027年 3月期 第1四半期	2026年 3月期 第1四半期	対前期 増減	2027年 3月期 第1四半期	2026年 3月期 第1四半期	対前期 増減
機能 ソリューション	12,354	11,515	7.3% 838	2,526 20.4%	1,582 13.7%	59.7% 944
メディカル	2,925	3,145	△7.0% △219	315 10.8%	540 17.2%	△41.7% △225
アパレル	13,321	14,763	△9.8% △1,441	1,185 8.9%	363 2.5%	226.7% 822
ライフ クリエイト	3,056	3,018	1.3% 37	321 10.5%	246 8.2%	30.4% 74
合計	31,367	32,240	△2.7% △872	3,387 10.8%	1,806 5.6%	87.6% 1,581

Ⅱ-3. セグメント別構成比

(単位：百万円)



総額は、セグメント利益に含まない全社費用を含む

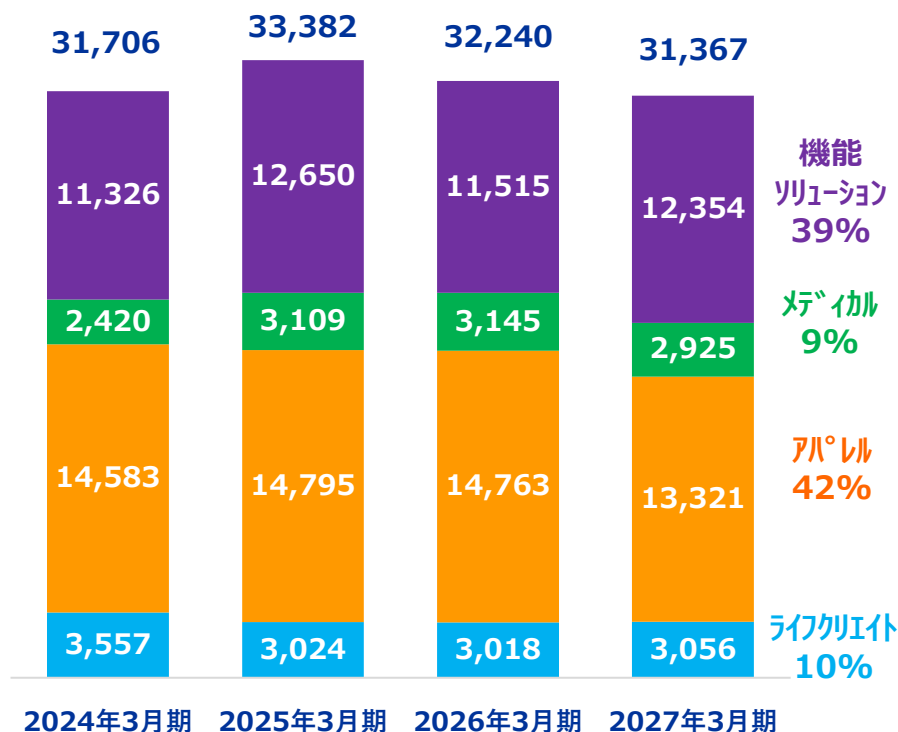
Ⅱ-4. 第1四半期決算 売上高&営業利益

売上高 **31,367**百万円 前年同期比 $\triangle 2.7\%$

(単位：百万円)

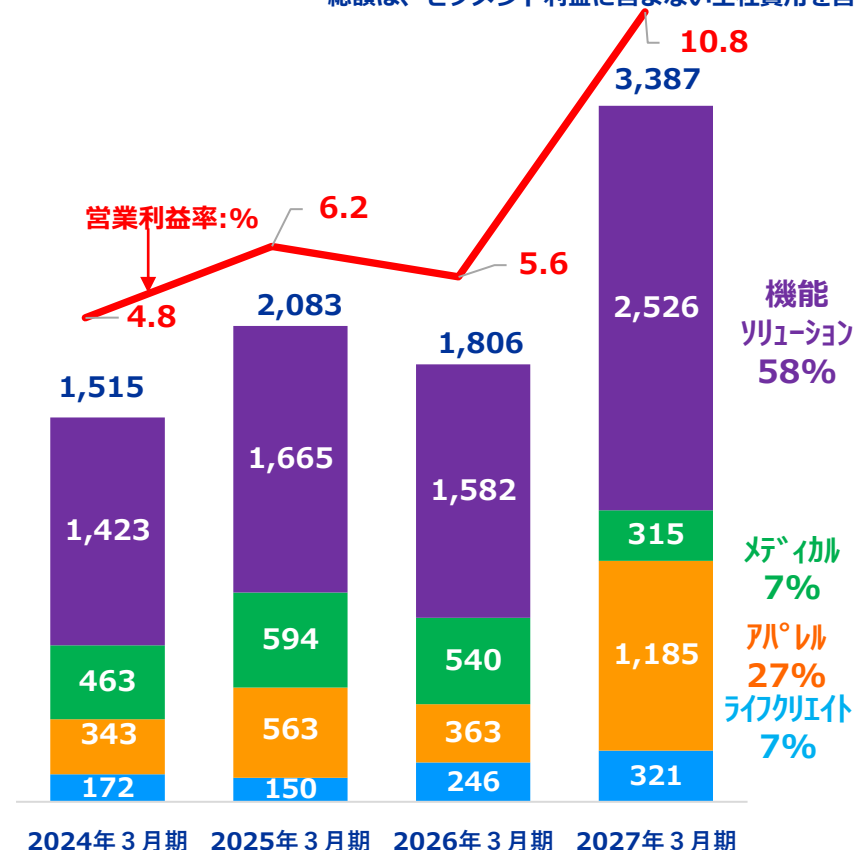
営業利益 **3,387**百万円 前年同期比 **87.6%**

<事業セグメント売上高推移>



<事業セグメント営業利益推移>

総額は、セグメント利益に含まない全社費用を含む



Ⅱ-5. 2027年3月期 第1四半期決算 業績

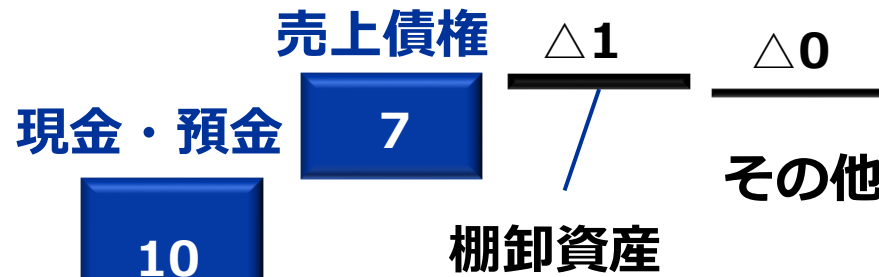
(単位：百万円)

	2027年3月期 第1四半期	2026年3月期	増減額
総資産	154,490	153,612	877
自己資本	107,839	111,756	△3,917
自己資本比率	69.8%	72.8%	△3.0%
有利子負債	19,515	13,964	5,551
BPS 1株当たり純資産(円)	3,440.20	3,565.39	△125.19

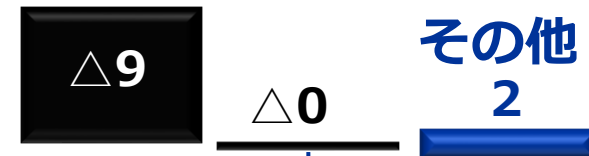
Ⅱ-6.資産の増減内容

◆ 前期末との差

(単位：億円)



有形固定資産



9億円増加

1,536

1,545

'26/3末
総資産

< 流動資産 16 >

< 固定資産 $\Delta 7$ >

'26/6末
総資産

Ⅳ. 事業セグメント別の概況

Ⅲ-1. 2027年3月期第1四半期事業概況

◆ 機能ソリューション事業 1

事業の
方向性

強化・拡大

■ プラスチック

市場環境変化に対応し、安定供給を果たすとともに、サーキュラーファクトリー（資源循環型工場）を中核に資源循環モデル確立を推進する

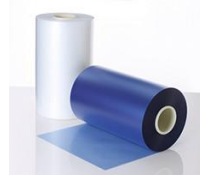
◆ 製品群	製品内容	概況
平板収縮	・PETとPSの積層構造ハイブリッドフィルムは、収縮特性に優れ、美麗性に特徴あり ・資源循環戦略による環境配慮型製品に注力	・製品値上前の先取り需要もあり、販売は堅調に推移 ・飲料分野では、環境対応型製品の採用が拡大中
ナイロン	・ガスバリア性や耐ピンホール（穴が開き難い）特性を保持	・資源循環による原価低減効果と先取り受注で販売が増加
工業用品	・半導体製造用、EV電池用等の工業材料や壁紙に使用	・半導体需要の拡大に伴い、製造工程に使用されるテープ用途が好調
OPP	・防曇フィルムを中心に差別化を訴求	・業界全体で供給不安が発生した影響にて受注量増加
グローバル	・米国、中国、ベトナムの3拠点にて平板収縮フィルムを生産・販売	・米国：ハイブリッドは堅調。次世代製品の販売を準備中 ・ベトナム：コスト競争力強化で、アセアン市場の販売復活 ・中国：市況低迷に対して、製品値上げとコスト低減で対応



■ シュリンク（平板収縮）



■ ナイロン



■ 工業用品



■ OPP



Ⅲ-2. 2027年3月期第1四半期事業概況

◆ 機能ソリューション事業 2

事業の
方向性

■ エンジニアリングプラスチック

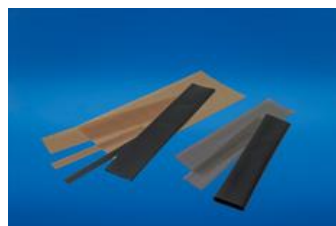
OA市場向け製品のシェア拡大を図るとともに
半導体・医療・エネルギー分野など、非OA向け
カテゴリーの強化に努め、事業成長を図る

収益拡大

◆ 製品群	製品内容	概況
OA向け 機能商品	・定着ベルト/ロール用フッ素薄膜チューブ 中間転写ベルトは、グローバルトップシェア	・オフィス向け複合機、商業印刷機向けは堅調も、プリンター向けは需要減により漸減傾向
非OA向け	・産業分野の製造工程で使われる機能部品の 製造・販売	・半導体向け製品は、市場における需要の高まりにより、 好調に推移 ・医療向け製品は、カテーテル製造用チューブが堅調に 推移



■ シームレスベルト



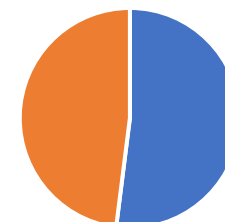
■ フッ素薄肉チューブ



■ 半導体製造用
フィルター・シート材



■ フッ素樹脂チューブ
(引裂き性付与)



■ OA向け
■ 非OA向け

Ⅲ-3. 2027年3月期第1四半期事業概況

◆ メディカル事業

事業の
方向性

■ メディカル

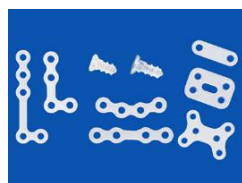
自社開発製品の提供を通じて着実な売上拡大を図るとともに、グローバルに展開する医療機器企業への成長を目指す

強化・拡大

◆ 製品群	製品内容	概況
組織補強材	・手術中における縫合部の補強や空気漏れ防止に適応 ・生体組織再生の足場材料として有効	・日本：競合参入影響に対し、付加価値訴求による対策を強化 ・中国：高額医療規制による病院での使用数量減影響を受け、厳しい状況が続く
骨接合材	・生体吸収性の骨接合材	・日本：形成外科を中心に需要は堅調に推移 ・中国：医療費削減対象品目への指定懸念による購入抑制影響を受ける
人工皮膚	・コラーゲン使用の吸収性人工皮膚	・日本：熱傷領域を中心に新規施設での採用や使用定着が進む ・中国：高額医療規制などの政策影響を受ける
癒着防止材	・凹凸形状を付与したフィルム状のゼラチンからなる吸収性癒着防止材 消化器外科中心に新規獲得進む	・重点施設での競合対策を強化し、シェア拡大を進める
仕入品	・美容・形成・創傷領域などの医療機器	・医療用レーザー：事業縮小に伴い、必要な顧客対応を進める



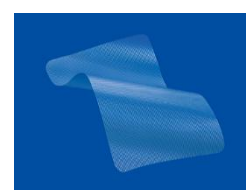
■ 組織補強材



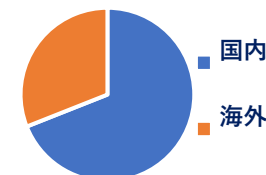
■ 骨接合材



■ 人工皮膚



■ 癒着防止材



Ⅲ-4. 2027年3月期第1四半期事業概況

◆ アパレル事業

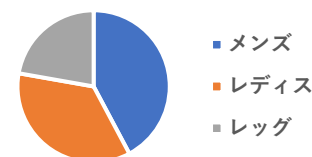
創益カテゴリーに集中特化し、収益性を最大化する持続的なビジネスモデルへ転換を図る

事業の
方向性

構造改革

■ インナーウェア分野

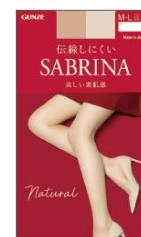
- ブランド・SKU削減、価格改定などの集中特化戦略により減販も、収益性は改善
- ECを中心に、DtoCルートへの販路シフトを推進
 - ・ アセドロン：汗対策に特化した機能訴求が顧客ニーズを捉え、好調に推移
 - ・ KIREILABO：価格改定や品番集約の影響を受ける



アセドロン

■ レッグウェア分野

- ブランド集約、SKU削減による効率化の推進
- 価格改定及び低収益カテゴリー見直しによる収益改善
 - ・ ストッキング：低採算PB撤退及び価格改定影響を受け、数量減
 - ・ ソックス：生産基地適正化及び不採算カテゴリーからの撤退を進める



SABRINA
ストッキング



KIREILABO
インナーウェア



BODYWILD

Ⅲ-5. 2027年3月期第1四半期事業概況

◆ ライフクリエイイト事業

事業の
方向性

構造改革

■ 不動産関連分野

投資効率を重視した物件別管理を強化し、低収益アセットの改善を進める

● SC事業の現況

- ・つかしん(兵庫県尼崎市)：リニューアル効果及び20周年イベントの強化などにより、来館者数が増加し堅調。



つかしん

● 不動産賃貸事業の現況

- ・売上、利益共に安定して推移

■ スポーツクラブ分野

スクール事業の会員拡大、フィットネス事業の魅力度向上への取り組みを進める

- ・既存店の価格改定と不採算店舗の閉店により収益性改善
- ・スクール事業は、店舗毎に対策を講じ会員数拡大
- ・フィットネス事業はターゲットにあった販促を強化
- ・学校、自治体など受注案件の拡大が進む



スクール事業

■ 緑化分野

緑化需要の取り込みと、CO2固定化に積極的に取り組む

- ・首都圏では大型物件が順調も、地方は苦戦



都市緑化(御堂筋イチョウ並木)

IV. 2027年3月期連結業績見通し

IV-1. 2027年3月期連結業績予想

業績予想

※業績予想修正：無（単位：百万円）

項 目	2027年3月期		2026年3月期		対前年	
	業績予想	利益率	実績	利益率	増減	増減率
売上高	132,000		130,918		1,082	0.8%
営業利益	8,800	6.7%	4,882	3.7%	3,918	80.3%
経常利益	8,400	6.4%	4,920	3.8%	3,480	70.7%
親会社株主に帰属 する当期純利益	5,200	3.9%	509	0.4%	4,691	921.6%

IV-2. セグメント別業績予想

セグメント別対前期比較

※業績予想修正：無（単位：百万円）

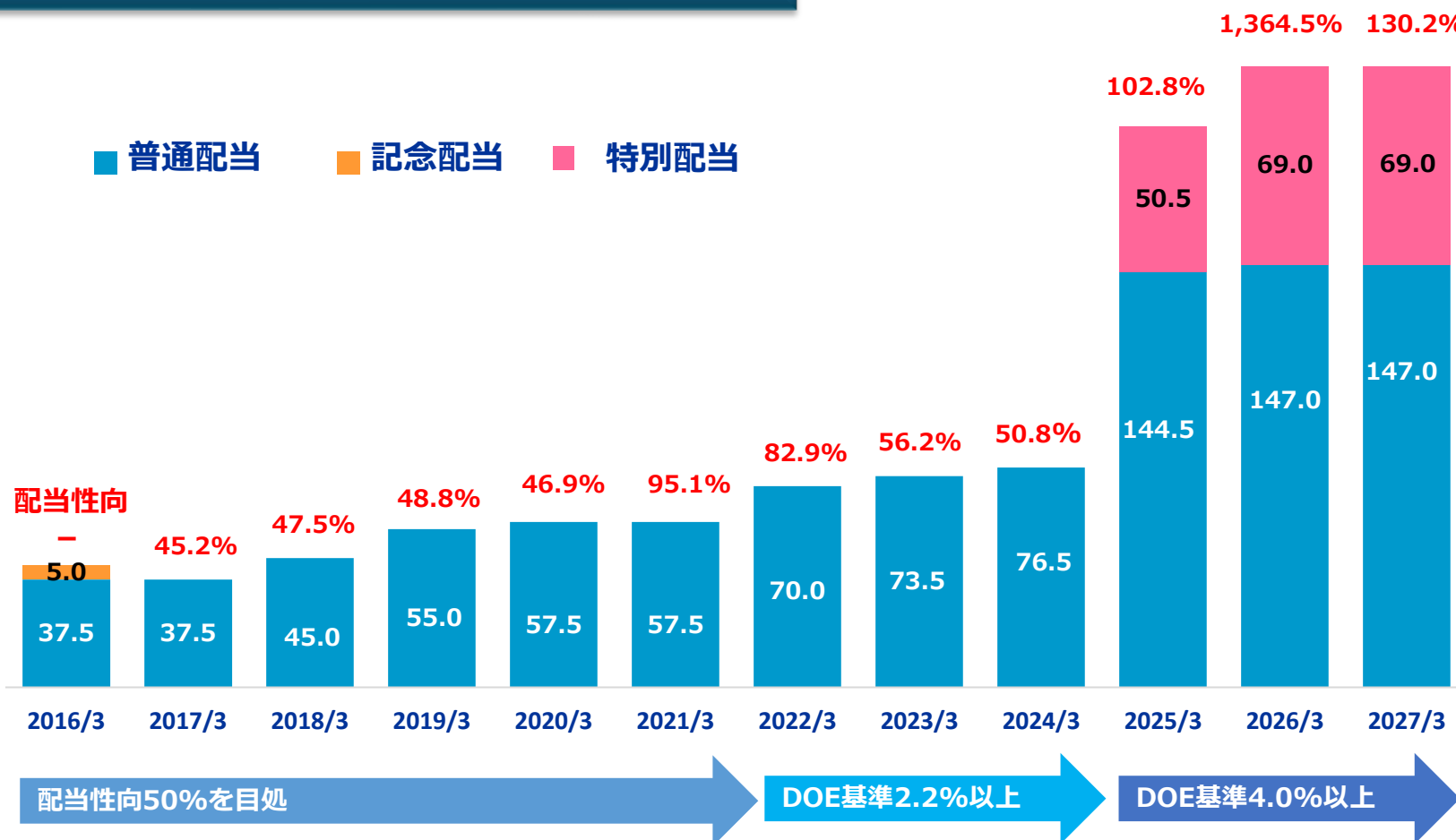
	売 上 高			営業利益又は損失（下段：利益率）		
	2027年 3月期 (2026年度)	2026年 3月期 (2025年度)	増減	2027年 3月期 (2026年度)	2026年 3月期 (2025年度)	増減
機能 ソリューション	49,300	47,543	3.7% 1,757	8,300 16.8%	7,234 15.2%	14.7% 1,066
メディカル	14,400	13,197	9.1% 1,203	1,800 12.5%	1,474 11.2%	22.1% 326
アパレル	56,600	58,597	△3.4% △1,997	1,300 2.3%	△1,334 △2.3%	- 2,634
ライフ クリエイト	13,000	12,530	3.8% 470	1,300 10.0%	1,232 9.8%	5.5% 68
合計	132,000	130,918	0.8% 1,082	8,800 6.7%	4,882 3.7%	80.3% 3,918

IV-3. 株主還元

1 株配当金と配当性向の推移

(単位：円)

予想

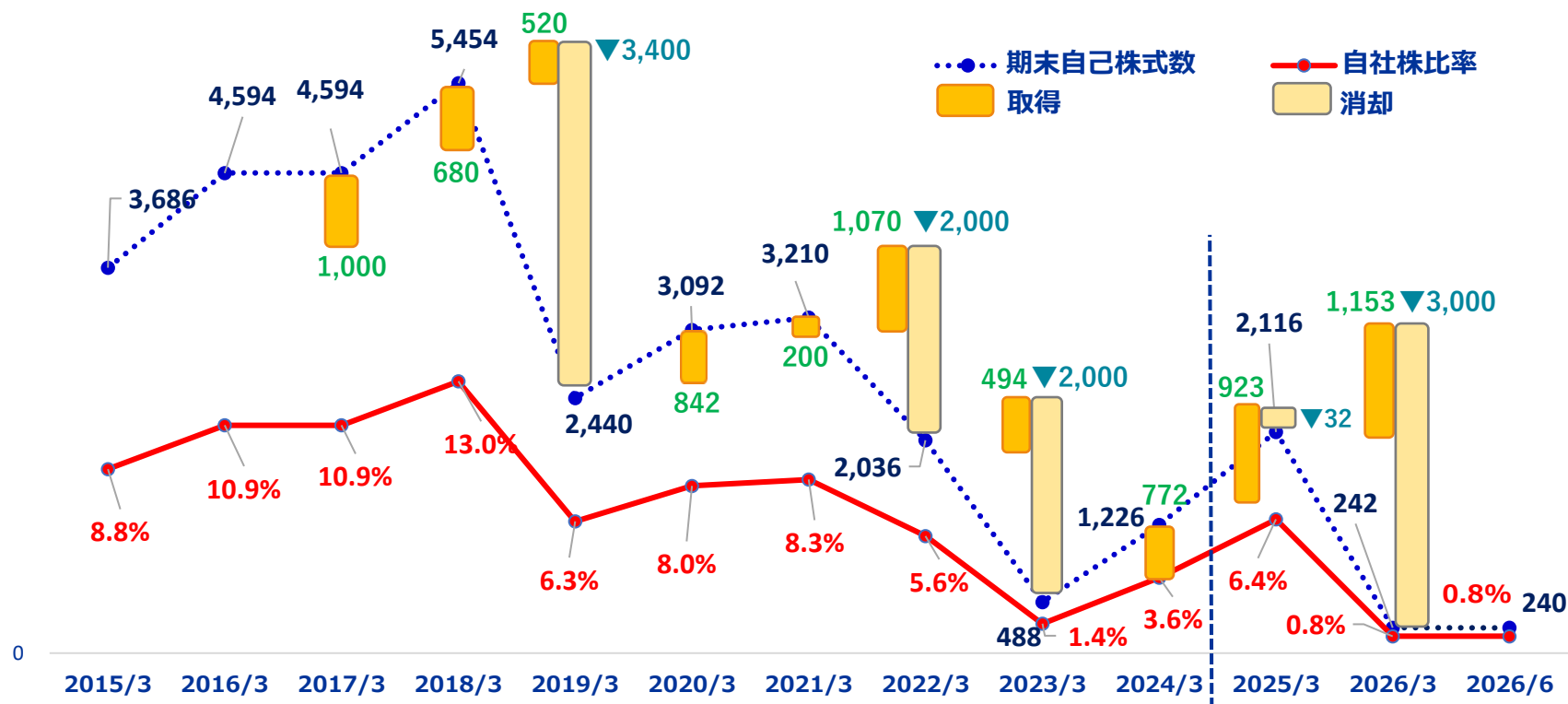


※ 2025年4月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を実施 過年度分も当該株式分割後ベースで記載

IV-4. 株主還元

自社株の状況

(単位：千株)



※ 2025年4月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を実施 過年度分も当該株式分割後ベースで記載

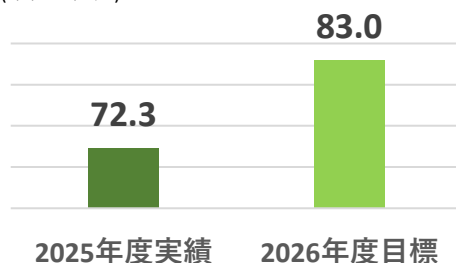
V. 2027年3月期目標達成に向けた主要施策

V-1. 2027年3月期目標達成に向けた主要施策

営業利益

機能ソリューション

(単位：億円)



プラスチック

□ 今期の見通し

- ・原料価格と販売数量は不安定な状態が継続

■ 2026年度目標達成の取り組み

- ・**海外事業の収益基盤を再構築**し、利益回復を図る
 - 米国ではオレフィンフィルムの事業化を推進
 - ベトナムで差異化製品の拡販を進め、生産・販売体制を強化

エンブラ

□ 今期の見通し

- ・半導体は在庫調整一巡、回復基調

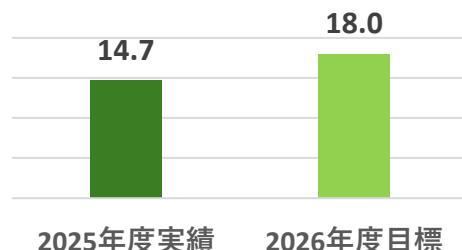
■ 2026年度目標達成の取り組み

- ・**半導体分野を重点成長領域**と位置付け、需要拡大を着実に取り込み事業拡大を加速
- ・生産能力の増強と安定供給体制の強化を進め、事業拡大を推進

V-1. 2027年3月期目標達成に向けた主要施策

営業利益

(単位：億円)



メディカル

□ 今期の見通し

- ・ 中国は当面低迷続くも、国内自社製品は堅調に推移

■ 2026年度目標達成の取り組み

- ・ **自社製品中心の事業構成**へ転換
- ・ 欧州・米州・APACでの販売拡大により中国依存度を低減
- ・ 低収益事業を縮小し、高収益事業ポートフォリオを構築

アパレル

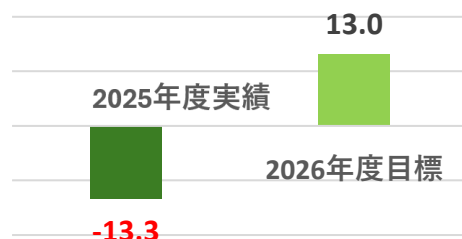
□ 今期の見通し

- ・ 既存ルート縮小も、構造改革で収益改善見込む

■ 2026年度目標達成の取り組み

- ・ 工場集約・間接人員削減・価格改定など、**収益改善施策の効果**
が本格的に発現
- ・ 在庫評価減の解消（+19億円）による利益改善

(単位：億円)



本資料のうち、業績見通し等に記載されている内容は、現在入手可能な情報による判断に基づいたものであり、記載された将来の計画数値、施策を保証するものではありません。